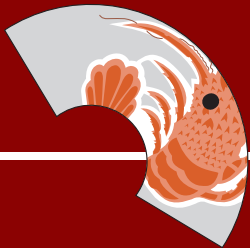


ひき はく

長浜市曳山博物館
2014.4

曳博だより



編集・発行：長浜市曳山博物館 〒526-0059 滋賀県長浜市元浜町14-8 TEL 0749-65-3300 FAX 0749-65-3440



青海山



平成二十六年 長浜曳山まつり



月宮殿



春日山



諫鼓山

■一番山：青海山「恋女房染分手綱 重乃井子別れの段」■二番山：春日山「太刀盗人」■三番山：月宮殿「基盤太平記 山科閑居 大石妻子別れ」■四番山：諫鼓山「喜有福満祭提灯」

今年の長浜曳山祭は天候にも恵まれ、文字通りハレ（晴れ）の日となりました。
古老の記憶によれば、13日～17日の5日間が晴れたのは16年ぶりのことだそうです。
昼の曳山も夜の曳山も美しく、また子ども歌舞伎の熱演は一日に何度見ても素晴らしいものでした。
本日（15日）の博物館では、例年の通り大扉を開けて曳山の公開も行いました。
来年の曳山祭へ向けての展示や、企画展もすでに始まっております。ぜひご来館ください！

上丹生の曳山茶碗祭

館長 中島誠一

かみにゅう ひきやまわらわむまつり

上丹生の曳山茶碗祭が5年ぶりに開催されます。今日はその祭りの歴史や見どころについて紹介したいと思います。この祭りは長浜市余呉町上丹生（旧伊香郡余呉町大字上丹生）でおこなわれる春の曳山祭礼で、滋賀県の重要無形民俗文化財に指定されています。以前は3年ごとに4月3日におこなわれていましたが、近年は不定期となり開催日は人よりの都合から5月4日に変更されました。当日は村おこしも兼ねて、お祭り広場には多くのテントが張られ地場の材料を使った弁当や、栃餅、お寿司等が売られゴールデンウイーク中の祭りとして多くの観光客を集めています。祭礼は午前9時過ぎ丹生神社の祭典を皮切りに稚児



稚児の舞

の舞の奉納がおこなわれます。棒と笹を持つ「神子の舞」、鈴と御幣を持つ「鈴の舞」、扇と御幣を持つ「扇の舞」をはじめアクロバティックなものを含み、大変興味深いものです。また舞の囃子方である「十二の役」は小太鼓・大太鼓・鉦叩き・大打ち・ささら摺

り・棒振りから構成されたもので、これらの芸能は日本の中世の芸能を伝えていると高く評価する専門家もいます。なお大太鼓の装束は高さ3mほどの竹の先に御幣を付けた巻き短冊を背負い、背には7筋の丸帯を垂らした館を背負っています。

実はこの装束は長浜市内の木之本町川合や木之本町金居原そして余呉町中河内の太鼓踊りのものと酷似しています。回転して踊る際にはこの帯が実に綺麗な円を描き、踊りに花を加えます。奉納が済むと神輿・長刀振り・法螺貝・大鉦・小鉦・新神主・花奴・道笛・十二の役・舞児・曳山などの祭礼行列が村の中を練り歩きます。歌舞伎狂言の一場面を再現した陶磁器の人形飾りを載せて曳行する3基の曳山は勿論のこと、練り込み、花笠踊りは実にリズムカルそして華やかに祭りを盛り上げます。花笠の花奴は以前、青年の役目でしたが今では女性も参加し祭りに華やぎを添えています。お祭り広場で神子の舞・鈴の舞・扇の舞が披露されるとお昼の休憩です。午後2時前、八幡神社の参道で練り込みがおこなわれ、3時過ぎには御旅所である八幡神社に到着、稚児の舞の奉納、そして祭りのフィナーレというべき曳山飾りの支柱取り外しがおこなわれるとあら不思議、人形飾りはゆらりゆらりと揺れながら直立するのです。つまりカラクリと飾り山が同居した独特のスタイルを見ることができのです。高さ5m余のからくりの仕組みは現在でも秘伝とされ、茶碗祭りという名前の由来もここにあります。なお以前は祭りが終わると曳山は解体され保存されていましたが、現在は茶碗祭りの館に付設して作られた山蔵にそのまま収納、保存展示しています。

曳山博物館ではこの茶碗祭りの主たる場面をパ

ネルにし展示します。長浜に残る貴重な祭りをどうかご覧ください。

4月21日～6月1日まで

【企画展】上丹生の曳山茶碗祭紹介パネル展

《追伸》

5月4日、茶碗祭りの見学会を「新緑の奥余呉に誘われて 上丹生曳山茶碗祭」と題して開催します。是非ご参加ください。この募集の際「奥余呉」という呼称が聞きなれないとしてお電話を頂戴しましたが、担当の中島が直接お答えできずに申し訳ありませんでした。私の思いとして「奥」は、奥ゆかしい、奥深いなど日本的な高い文化の成熟度の表現と心得ています。豊かな自然の中でおこなわれる茶碗祭りはじめオコナイ行事などにお邪魔するたびにこれらの文化を伝承されてきた方々に尊敬の念を新たにするとっても過言ではありません。紙面をお借りして（お目にとまるかどうかは判りませんが）お伝えできれば幸いです。

土蔵から見つかった江戸時代の貨幣展
「貨幣を秤る」について

館長 中島誠一

いよいよシリーズとして御覧頂けるようになった小判展示バージョン追加のお知らせです。

現在展示中の「貨幣を秤る」は、文字に拘った展示で天秤を意味しています。天秤は江戸時代、貨幣の重さを量るために使われた道具で、両替商にとっては必要不可欠な道具でした。天秤は真ん中を支点とする梃子によって量を秤る器具です。両端に皿を吊るし、片方に物を載せ、他方には分銅を載せ水平に吊り合うようにして物の重さを量

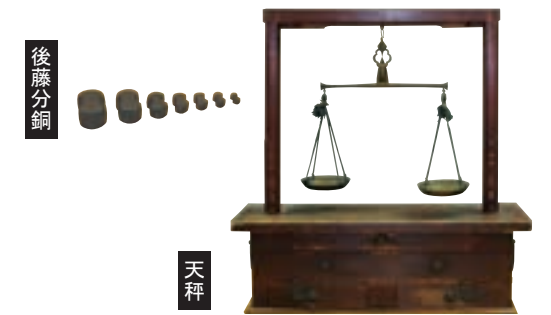
ります。江戸時代は金（小判）銀（丁銀）銅（寛永通宝）の三系統のお金が使われました。これを三貨制度と呼びますが、東の金づかいに対して西の銀づかいと言われるように、西日本では銀を秤量貨幣として重さで金額を確定したため、両替商が使用したのがこの天秤です。天秤本体の制作については特に規制はなかったようで大工が作ったものもありますが、良品は京坂で作られたものが多いようです。これに対して分銅は金座の後藤家のみがその制作を許されていました。後藤光次は江戸初期、家康に抜擢され金座の主宰者となり、代々金改役として铸貨を司りました。彼は、後藤家五代目徳乗の弟子にあたります。後藤家初代祐乗は、室町中期の金工師で足利義政に仕え、刀装具を作りましたが、デザインや地金などに長けており新しい分野を切り開き後藤家開祖となりました。なお展示している分銅は15個ですが、本来は、五百目（187.5グラム）から一分（0.375）まで19種類あり微妙な調整のため刻みの入れられた木片が付属しています。分銅の形は江戸時代初期の生糸貿易の蚕の繭を象ったものと考え、いまでは銀行の地図記号としてよく知られています。

なおこのシリーズは6月2日（月）から8月31日（日）は、おもちゃの貨幣と題して「江戸時代に作られた子どものおもちゃの貨幣」特集をしようと思っています。陶器の素朴なものですが、当時の子どもの遊びのようすも判る興味深いものです。

9月1日（月）から12月28日（日）は「描かれた貨幣」と題し、江戸時代の非常に緻密に描かれた貨幣カタログを紹介する予定です。お楽しみに。



小判



後藤分銅

天秤

平成26年 展示計画

小池 充

曳山博物館では曳山祭の魅力に留まることなく、広域となった長浜市の祭を紹介することを積極的に取り組んでまいります。今年度は旧余呉町上丹生の曳山茶碗祭を紹介し、さらには、今年は5年ぶりに開催されます祭の見学会を開催します。

また、曳山祭の由緒に最も影響を与えたとされる豊臣秀吉にまつわる展示、曳山本体だけでなくその懸装品、全国山・鉾・屋台連合会の秋の研修会が開催されるのに合わせて長浜の曳山を修理する職人の作品といった展示を行います。

そして、旧家から見つかった小判の展示に関連し、「お金をめぐる歌舞伎千夜一夜」と題して、小判やお金が登場する歌舞伎を紹介します。

11月には特別展「歌舞伎に登場する女性たち」と題し、歌舞伎のヒロインたちを多方面から考察し、その魅力に迫ります。恒例のシリーズ干支、

百花繚乱、曳山を支えた人たちといったラインナップで今年度も展開してまいります。

さらに、長浜曳山祭のユネスコ無形文化遺産の登録へ向けて、博物館の展示活動だけにとどまらず、市民の方々とともにその機運を盛り上げてまいります。今回申請された32件の山・鉾・屋台の行事のなかでも、特に先人たちが築きあげられた「長浜曳山祭の曳山行事」は綿密に練り上げられ、格調高く、行事が多岐に渡り執行されています。「子ども歌舞伎」の奉納を軸にさまざまな行事が行われます。そのなかには「儀」と呼ばれる行事が多く、「長浜曳山祭は挨拶にはじまり、挨拶に終わる」とされ、「挨拶」が非常に重んじられています。それに加え町衆の心意気といわれる「裸参り」、「起こし太鼓」などの行事が祭りの雰囲気盛り上げるものとして存在し、行事全体を構成しています。まさに「静と動」が融合し、格調高いものとなっております。

このことを長浜市民はもちろんのこと、多くの方に周知し、市民が誇りに思えるものとなるよう、努力してまいります。長浜から世界に情報発信できるよう、その核となる博物館活動を行う所存であります。



・猩々丸装束
7月7日～7月27日
企画展「曳山関連資料展」展示予定



・青海山模型
9月1日～10月5日
企画展「曳山祭関連資料展」展示予定

「ご報告」 黒田官兵衛ゆかりの地
歴史探訪会 廣峯神社を訪ねて

中山芳章



平成26年3月18日(火) 曳山博物館歴史探訪会一行は、豊公園に7時30分集合、7時40分には黒田官兵衛ゆかりの地・兵庫県姫路市へ向けて出発しました。バスの中では、簡単な旅のしおりをテキストに、拙い説明でしたが、当日の行程や廣峯神社の縁起、姫路城の見どころなどについて簡単にお話させていただきました。途中、草津田上と三木でトイレ休憩をとったのち、山陽姫路東インターを降り、いよいよ廣峯神社のある広嶺山に向かいました。廣峯神社までは、小型バスで何とか交互通行できるくらいの道を進み、当社の鳥居前までは行くことができます。そこからはそれほど距離はありませんが、とても急な上り坂があるというのでタクシーを利用し、11時40分ごろに到着しました。廣峯神社は、官兵衛の祖父・重隆の

代に姫路に移り、当社の御師が配る神符とともに黒田家秘伝の目薬を売って財を蓄え、黒田家発展の基礎を築いたといわれる場所です。また、国の重要文化財に指定されている本殿拜殿

以外にも、御師屋敷や数多くの撰社・末社があり、これだけでも時間をかけて訪れた価値が十分あったと思います。その後、昼食は灘菊酒造を訪れ、もともと酒蔵だったところを改装した部屋で酒粕や麹を使ったお料理をいただき、午後からは大河ドラマ館および姫路城内にある歴史館を訪れ、官兵衛一色の旅は終了しました。今回の旅は、出発当初から天気が思わしくなく、一日中天気を心配しながらの移動となりましたが、ご参加いただいた皆様の日頃のご精進の賜物によるものか、バスに乗っている間だけ雨が降るといふ現象が起こり、幸い見学中は雨に見舞われることなく無事1日を終えることができました。ありがとうございました。

次の歴史探訪会は 5月4日(日)
新緑の奥余呉に誘われて上丹生曳山茶わん祭

年間観覧券のご案内



曳山博物館では、随時 年間観覧券の販売を行っています。ご購入から一年間、いつでも何度でもご入館いただけます。

◎個人券 一年間二、〇〇〇円 (ご本人のみ)

◎家族券 一年間三、〇〇〇円 (ご本人含めご家族五名様まで)

◎法人券 一年間一〇、〇〇〇円 (一回につき一〇名様まで)



★通常大人六〇〇円ですので大変お得な券です。いつでも事務所にて販売しておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。
(TEL 0749-65-3300)

展示のお知らせ



曳山の展示

4月21日～7月6日まで

曳山二基公開 (高砂山、鳳凰山)

来年の長浜曳山祭り出番山、高砂山と鳳凰山の山車をご覧いただけます。

4月21日～6月1日まで

上丹生の曳山茶碗祭紹介パネル展

5年ぶりに開催される祭。飾りカラクリ山のすがたを写真で追います。

6月2日～7月6日まで

神になった秀吉

町衆たちによる秀吉信仰の思いを展示します。

7月7日～7月27日まで

曳山関連資料展

壽山・狸丸の胸幕など曳山関連の資料を展示します。

企画展のご紹介



NAGAHAMA HIKIYAMA MUSEUM

曳山博物館

ON THE CROSSROAD OF OTEMON St. AND HAKUBTSUKAN Ave.

発行日:平成26年4月25日